

平成30年度 萱田南小学校研究計画

1 研究の目的

(1) 新しい時代に対応できる「生きる力」を育てる

- ・学校教育目標「国際社会にはばたく南の子 ～夢と自信をはぐくむ～」の実現に向け、社会の激しい変化に対応できる資質や能力を身につけ、夢をもって自分の将来を自分で切り拓いていく児童の育成を目指す。

(2) 新しい教育の在り方を学び、実践する

- ・新しい教育の在り方を学び、教育実践にあたる。そのために研究と研修を一体化させる。

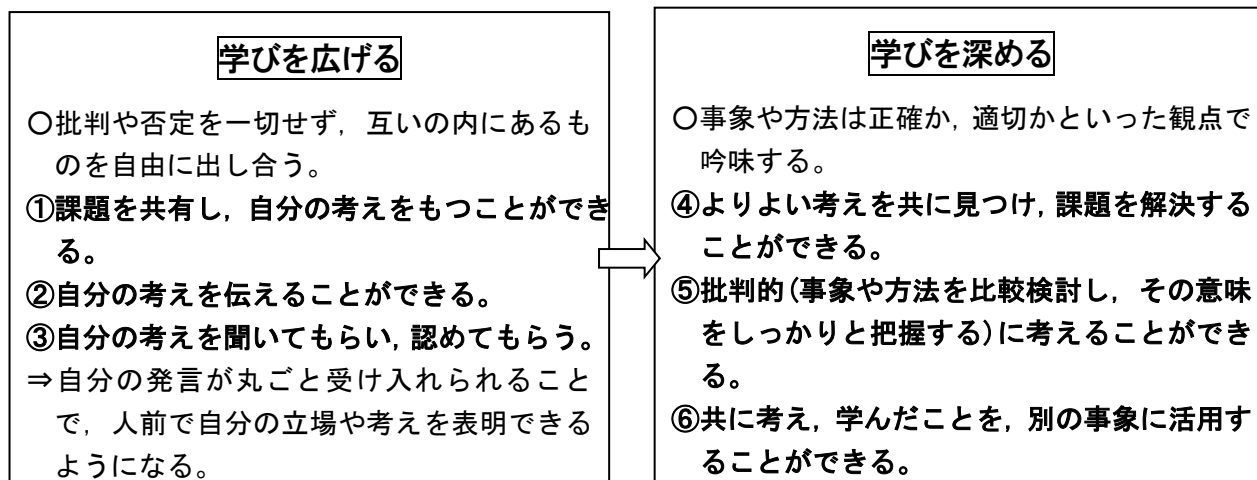
(3) 教育専門職として必要な、資質・指導力の向上に努める

- ・学校教育目標「国際社会にはばたく南の子 ～夢と自信をはぐくむ～」の具現化に向けて日々指導力を高め、教育実践に努める。

2 研究主題と設定の理由

共に考え学びを深める学習をめざして（国語科・理科）

本校は「学びを深める」ということを、以下のように捉えている。

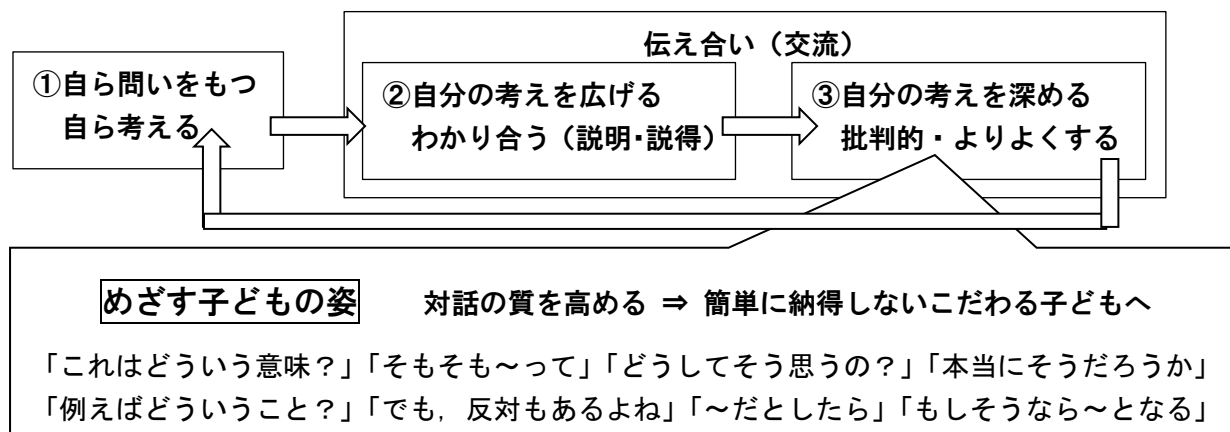


昨年度まで本校は算数科・理科の2教科で行ってきたが、本校児童の実態(全国学力学習状況調査の結果含む)とこれから求められる教科横断的な視点によるカリキュラムマネジメント等の理由により、今年度から国語科と理科の2教科で行う。

4 研究教科と研究の方向性

(1) 研究教科…国語科・理科の2教科で研究を進める。

① 本校が捉える国語科・理科に共通する「深い学び」



② 何を柱とするか

国語科「考えの形成」+理科「見方・考え方」⇒「思考力・判断力・表現力等」の資質・能力				
学 年	国語科「考えの形成」 ①話す②聞く③話し合う④書く⑤読む	「思考力・判断力・表現力等」		理科「見方・ 考え方」
		国語科	理科	
1 2	① 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考える。 ② 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつ。 ③ 互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐ。 ④ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫する。 ⑤ 文章の内容と自分の体験を結び付けて、感想をもつ。	順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができる。		＜見方＞ <u>エネルギー</u> 量的・関係的な視点 <u>粒子</u> 質的・実体的な視点 <u>生命</u> 多様性と共通性の視点 <u>地球</u> 時間的・空間的な視点
3	① 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら話の中心が明確になるよう話の構成を考える。 ② 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつ。	筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができる。	差異点や共通点を基に、問題を見いだす力	比較
4	③ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめる。 ④ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫する。 ⑤ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつ。		既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想する力	関係付け
5	① 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考える。 ② 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる。 ③ 互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりする。		予想や仮説を基に、解決の方法を発想する力	条件制御
6	④ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想意見とを区別して書いたり、引用や図表・グラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。 ⑤ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる。		より妥当な考えをつくりだす力	多面的

3～6学年は、国語科の「考えを形成する」学習過程を重視し、理科の「見方・考え方」を少しずつ働かせられるようにし、国語科・理科の「思考力・判断力・表現力等」を育むようにしていく。

(2)研究の方向性

①公開研究会は実施しない。

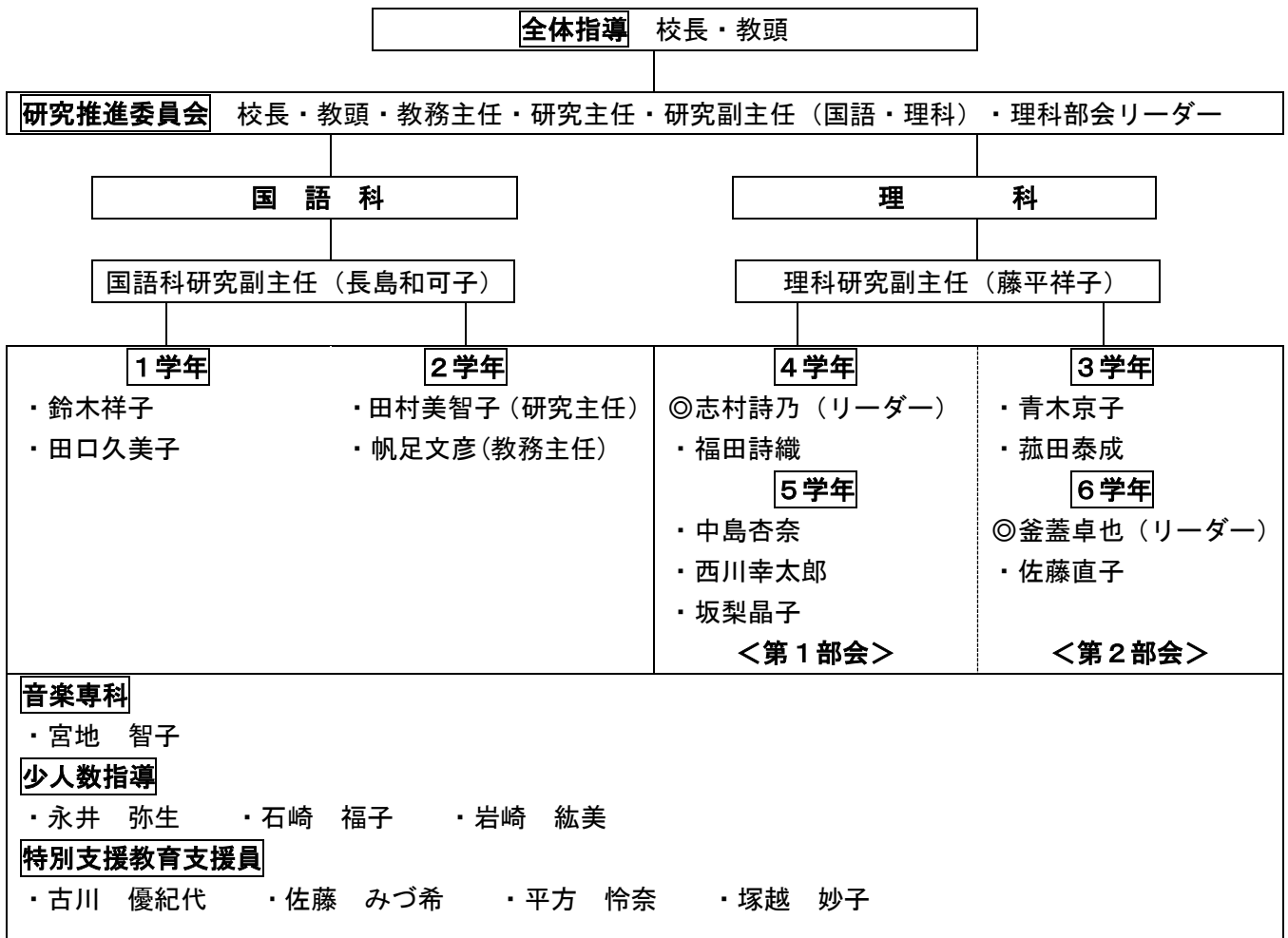
②研究の重点については、昨年度同様、

【重点1】 伝え合いを中心として学びを深めるための教師の働きかけを考える。

【重点2】 育てる力を明確にして、単元構成を吟味する。

で授業研究を進めるが、必要に応じて修正を図る。

③平成30年度研究体制



○国語科部会（1部会）と理科部会（2部会）とする。

○研究主任，研究副主任，部会リーダーを中心として，少人数で意見交換をしやすい環境にする。

○2教科の研究内容を相互に学ぶ時間を設定する。

○研究推進委員会は，校長，教頭，教務主任，研究主任，研究副主任，部会リーダーで構成する。

④研究計画の樹立(研究推進委員会)と授業研究を通じた修正・改善 …以下は年間計画の案

- 1 学期** ・ 学習指導要領の読み込みをする。学力テストの結果をもとに児童の実態の把握を行う。
 =育てる資質・能力の設定 ⇒教科書等の素材の教材化（単元構成の工夫を含む。）
- ・ 講師による指導助言をいただく。
 - ・ 講師指導をもとに研究授業を行う。（理科部会）

夏休み ・ 1学期の研修を活かした教材研究・学習指導案づくりを行う。

2 学期 ・ 研究授業として，1人1授業を行う。

3 学期 ・ 1，2学期の成果と課題を活かして研究授業を行う。

・ 今年度の研究の成果と課題をまとめ，次年度の計画を立てる。

⑥ 今年度の講師

国語部会 八千代市教育委員会指導主事
理科部会 八千代市高津小学校教諭

永山 裕基 先生
井桁 孝之 先生

6 平成30年度 研究年間計画(別紙参照)

7 研究仮説と研究の重点について

(1) 研究仮説

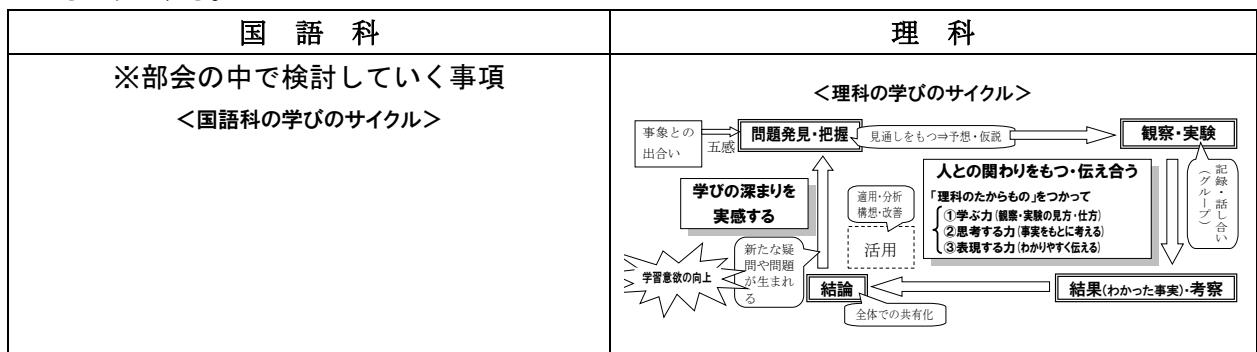
育てる力を明確にし、教師の働きかけを工夫すれば、よりよい考えを共に見つけ、課題を解決し、学びを深めることができるだろう。

(2) 研究の重点と手立て

【重点1】 伝え合いを中心として学びを深めるための教師の働きかけを考える。

<手立て>

①「学びのサイクル」をベースとするが、「育てる力」や「学びの深まり」に応じて弾力的に当てはめて行えるようにする。



→これまでの研究の成果から、主体的に問題解決をする態度を養うには、上記の「学びのサイクル」のような学び方の型を、児童が獲得することが有効なのは明らかである。しかし、「学びのサイクル」に当てはめた授業づくりが目的化されてはならない。なぜなら、「学びを深める」ためには、時間をかけて行わざるを得ない学習過程の場面が生じるからである。目的とすべきは、「基本的な知識・技能を身に付けさせ、それをもとに思考し伝え合う中で、学びを深めていくこと」である。そこで、「学びのサイクル」を弾力的に当てはめることができるようにしていきたい。

②学習過程における教師の働きかけを主とした指導案検討や授業協議会を行う。

<学習過程における教師の働きかけ例>

	国 語 科		理 科
つ か む	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の導入では、学習の目的を明確にする。 ○「問い」を引き出し、取り組むべき必然性のある課題を設定する。 ・児童の「えっ」「どうして」「なぜだろう」を生み出す工夫をする。 ・題名読みや初発の感想の活用。 ・既習からの想起や既習のゆさぶり。 ○身に付けさせたい言語活動の見通しをもたせる。 ・指導事項に沿ったゴールの提示。 ○「問い」を自分のこととして捉え、見通しをもたせる。 	問 題 把 握	<ul style="list-style-type: none"> ○考えるための事象を見極めて提供する。 ○より多くの感覚を使わせ、心を揺り動かす事象提示を心がける。 ○自然事象の比較や関係付けができる発問をする。 ○内容の学びのプロセスを考える発問をする。 (例)～を調べるにはどうしたらよいだらう ○考えを深めるために対話のある活動を導入する。

見 通 す	<ul style="list-style-type: none"> ○「問い」に対する自分の考えを形成させる。 ○解決に取り組めない児童への個別指導をする。 ○個々がどのような考え方や方法をしているかをつかむ。 ○深めるための計画を立てる。 	観 察 実 験	<ul style="list-style-type: none"> ○焦点化したり、事実と考えを区別したりするための助言・指導をする。 ○十分な時間の確保に努める。内容によっては「何度やっても、誰がやっても」を試せるようにする。 ○児童間での事実の発見の喜びを味わえるように、教師は不必要に介入しない。
深 め る	<ul style="list-style-type: none"> ○目的に応じて文章の内容を的確に読み取らせる。 ○「問い」を活かした効果的な交流活動の形態を考える。(ペア, 3人組, パビリオンなど) ・様々な意見にふれ, 考えを深める交流活動 ・共通点・相違点はないか考える交流活動 ・合意形成のための交流活動 <p>【机間指導】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ○全員が伝え合いに参加しているか。 ○つまづいているところはないか。 ○どのような方法や考え方を出し合っているか。 ○全体で伝え合う視点や方法を計画する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○効果的な伝え合いの順序を考える。 ○言葉による見方・考え方を働かせ, 言葉で理解したり, 表現したりしながら思いや考えを広げ深める。 ○板書の工夫をする。 	結 果 考 察	<ul style="list-style-type: none"> ○根拠となる事実を明確にして考えを記述できるような助言・指導をする。 ○児童が多様な考えを伝えやすい環境をつくる。 ○観察・実験の結果を予想や仮説と照らして, 一致, 不一致という視点で判断させる働きかけをする。 ○内容について理由や根拠を考える発問をする。 (例)～は～なのに, …が…なのは どうしてだろう ○正確か, 適切かといった観点で, 互いの考えや実験方法を比較し, より妥当な考えになるような助言・指導をする。 ○児童が考えを整理できるような板書をする。
ふ り か え る	<ul style="list-style-type: none"> ○「問い」への考えを整理させる。 ・友達の考えを取り入れる。 ・自分の言葉で書く。 ・ノートに加除訂正する。 ・大事なことにマークを付けたり, 赤で囲んだりする。 ○学習を振り返り, 新たな「問い」につなげる。 ・自己評価　・相互評価　・次時の学習活動 	結 論	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が学びをふり返り, 学び方を自覚する場を設けるようにする。 ○結果から気付いたことではなく, 共通することは何かを整理できるような発問をする。 ○内容について, 理由や根拠, 学びのプロセスを基にして, 日常生活とのつながりを考える発問をする。

③指導案検討をする際、児童の予想される発言をキーワードにして整理し、キーワードとなる言葉が伝え合いで生まれた場合、どのようにコーディネートすれば考えが深まるかを話し合う。

【重点2】育てる力を明確にして、単元構成を吟味する。

⇒「育てる力」をつけるには、どのような場を設定すればよいのか、どのような知識・技能を身につけておく必要があるのかを検討し、単元構成の吟味を行う。

<手立て>

① 新学習指導要領や児童の実態をもとに「育てる力」を考え、単元全体でどのように育むかを明確にする。

＜国が示している国語科・理科の資質・能力＞

国 語 科	理 科
<p style="text-align: center;">＜知識・技能＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○言葉の働きや役割に関する理解 ○言葉の特徴やきまりに関する理解と使い分け ○言葉の使い方に関する理解と使い分け ○書写に関する知識・技能 ○伝統的な言語文化に関する理解 ○文章の種類に関する理解 ○情報活用に関する知識・理解 	<p style="text-align: center;">＜知識・技能＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自然事象に対する基本的な概念や性質・規則性の理解 ○理科を学ぶ意義の理解 ○科学的に問題解決を行うために必要な観察・実験等の基本的な技能（安全への配慮，器具などの操作，測定の方法，データの記録等）
<p style="text-align: center;">＜思考力・判断力・表現力＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報を多面的・多角的に精査し構造化する力 ○構成・表現形式を評価する力 ○言葉によって感じたり，想像したりする力 ○感情や想像を言葉にする力 ○言葉を通じて伝え合う力 ○考えを形成し深める力 	<p style="text-align: center;">＜思考力・判断力・表現力＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自然事象の変化や働きについてその要因や規則性，関係を多面的に分析し考察して，より妥当な考えをつくりだす力（6年） ○予想や仮説などをもとに質的变化や量的変化，時間的变化に着目して解決の方法を発想する力（5年） ○見いだした問題について既習事項や生活経験をもとに根拠のある予想や仮説を発想する力（4年） ○自然事象の差異点や共通点に気付き問題を見いだす力（3年）
<p style="text-align: center;">＜学びに向かう力・人間性等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○言葉が持つ曖昧性や，表現による受け取り方の違いを認識した上で，言葉がもつ力を信頼し，言葉によって困難を克服し，言葉を通して社会や文化を創造しようとする態度 ○言葉を通して，自分のものの見方や考え方を広げ深めようとするとともに，考えを伝え合うことで，集団としての考えを発展・深化させようとする態度 ○様々な事象に触れたり，体験したりして感じたことを言葉にすることで自覚するとともに，それらの言葉を互いに交流させることを通して，心を豊かにしようとする態度 ○言葉を通じて積極的に人や社会と関わり，自己を表現し，他者の心と共感するなど互いの存在について理解を深め，尊重しようとする態度 ○我が国の言語文化を享受し，生活や社会の中で活用し，継承・発展させようとする態度 ○自らすすんで読書をし，本の世界を想像し 	<p style="text-align: center;">＜学びに向かう力・人間性等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自然に親しみ，生命を尊重する態度 ○失敗してもくじけずに挑戦する態度 ○科学することの面白さ ○根拠に基づき判断する態度 ○問題解決の過程に関してその妥当性を検討する態度 ○知識・技能を実際の自然事象や日常生活などに適用する態度 ○多面的，総合的な視点から自分の考えを改善する態度

たり，味わったりするとともに，読書を通して様々な世界に触れ，これを疑似的に体験したり，知識を獲得したり，新しい考えに出会ったりするなどして，人生を豊かにしようとする態度	
--	--

②確実に知識・技能を習得できるように，活用場面(教科・領域や日常生活への汎用を含む)を設けるようにする。

⇒教科・領域や日常生活への汎用には，以下のようなものがある。

○第1学年「みつけてはなそう，たのしくきこう」での経験を生かして「みんなにはなそう」においては，身近なことや経験したことから話題を決めて順序を考えてはなすことができるようにする。

○第6学年の理科「てこのはたらき」で習得した知識をもとに，身の回りの道具の「てこのはたらき」を説明できるようにする。

○第6学年の理科「電気の利用」「生物と地球環境」で習得した知識をもとに，家庭科「わたしたちの生活と地域」の実践に取り組むようにする。

②「育てる力」の評価規準を明確にし，適切に判断するための方法を話し合う。